

「医療安全相互チェック」の実施例

～京都医療センター(京都市)～

対象部門を訪ね、146項目をチェック

2019年1月31日、京都医療センターにおいて相互チェックが行われました。この事例では、「チェック対象病院」は京都医療センター、「チェック実施病院」は大阪医療センター、「オブザーバー病院」は南和歌山医療センターです。

午後1時、京都医療センターの担当者から、進め方の説明が行われ、続いて大阪医療センターと南和歌山医療センターのメンバーが2班に分かれ、ラウンド(視察)を開始しました。

チェック対象部門は「救命救急センター」と「循環器内科・血管外科・心臓外科・脳神経外科・神経内科・内分泌代謝内科・整形外科の各病棟」、「医療安全／臨床工学科／手術室／栄養部門／リハビリ部門」、さらに「感染管理体制／薬剤部門／放射線部門／臨床検査部門」、と多岐にわたります。医療安全相互チェックシートにある146項目が一つずつチェックされ、各部門では細かい質疑応答も繰り返されました。



チェックシートを使っている様子
実際の評価では、項目ごとに「○」「×」「NA(非該当)」のいずれかが記入される

互いにチェックし合うことのメリット

午後4時45分からの講評では、ピクトグラム(単純にデザイン化された絵文字)を活用した京都医療センター独自の取り組みや、医療安全に対する意識の高さが評価されていました。

同センターの小西郁生院長は「包括的あるいは個別的、詳細なご指摘をいただき、感謝します。当院は京都府南部の基幹病院として高度急性期医療を担っています。ご指摘のあった点を改善しながら、さらに高度で安全な医療、親切的な医療を目指



代表して挨拶する
京都医療センターの
小西院長

病室のベッドに使用されているピクトグラム(絵文字)。看護師向けの表示で、こうしたピクトグラムを使って転倒事故防止のための注意喚起を行ったところ、転倒件数が減少。ラウンドではその成果も説明された



電子カルテシステムをチェックしている様子
システム上、ハイリスク薬(特に管理が必要な医薬品)は他の薬とは違う色で表示される。そのため、識別が容易になった

て頑張っていきます」と締めくくり、4時間あまりに及んだ相互チェックが終了しました。

この相互チェックグループでは、2019年2月までに3病院の相互チェックが終了しています。このようにNHOは全141病院で相互チェックを繰り返し、その結果や成果を共有することで、医療安全のさらなる向上に努めています。こうした活動は、何よりも患者さんに提供される医療自体の質を高める効果をもたらしています。

※この医療安全相互チェックは、評価を得て、昨年4月から国の診療報酬制度に取り込まれました。さらなる医療安全対策の標準化を図るため、2019年度から体制を変更しています。



救命救急センターでの
チェックの様子
一刻を争う症例が多い救命救急センターでは、項目のチェックだけではなく、器具や薬剤なども目視で確認し、活発な質疑応答が繰り返された



臨床検査部門での質疑応答
検査機器などのチェック後、医療安全に関する各種マニュアルも用いて、部門担当者への質疑応答が行われた